

乙女 文楽

第13回 公演

おとめぶんらく



演目

義経千本桜

道行初音旅

奥州安達原

袖萩祭文の段

2024年1月20日(土)・21日(日)

【開演】11:00 / 15:00 (開場:開演の30分前)

【料金】前売 3800円 当日 4000円

川崎市国際交流センター ホール
(川崎市中原区)

*当日は開演1時間前より入場整理券を配布いたします。

お申し込み

現代人形劇センター Tel.044-777-2228
E-mail ticket@puppet.or.jp

チケットぴあ t.pia.jp Pコード 523214
イープラス eplus.jp

お問い合わせ

(公財)現代人形劇センター

TEL 044-777-2228 FAX 044-777-3570
E-mail asia@puppet.or.jp URL www.puppet.or.jp

*チケットはモトスミ・プレーメン通り商店街事務所でも取り扱っております。
TEL 044-422-3626

*ひとみ座倶楽部会員の方は料金の優待がございます。
(取扱窓口・現代人形劇センターのみ)

主催 ■(公財)現代人形劇センター

後援 ■神奈川県 / 川崎市 / 川崎市教育委員会 / (公財)川崎市文化財団
(公財)かわさき市民活動センター / (公財)川崎市国際交流協会
(公財)日本伝統文化振興財団 / (公財)ポーラ伝統文化振興財団
川崎商工会議所 / NPO法人日本ウニマ(国際人形劇連盟日本センター)

協力 ■森とせせらぎネット / 井田中ノ町商栄会 / モトスミ・オズ通り商店街
モトスミ・プレーメン通り商店街振興組合 / 川崎市民俗芸能保存協会

出演 ■ひとみ座乙女文楽
浄瑠璃 ■竹本越孝
三味線 ■鶴澤津賀花
鶴澤弥々
指導 ■故 桐竹智恵子
■ 桐竹勘十郎



「義経千本桜」 道行初音旅

よしつね せんぼんざくら みちゆきはつねのたむ
源平合戦の後、義経は兄頼朝の不興を受けて奈良・吉野に隠れ住んでいた。恋人の静御前は家来の佐藤忠信を供に、義経を追って吉野山中にさしかかる。静御前は義経を想い、忠信は過ぎた屋島の合戦で戦死した兄の様子を物語る。が、忠信にはひとつの秘密があった…
肉親の縁薄く流浪する源義経と、亡き親を一途に慕う子狐のふれあいを描く物語の一場面で、文楽、歌舞伎でおなじみの詩情豊かな人気曲。

【静御前】山下潤子

【佐藤忠信】鈴木文（20日11時、21日15時）

田川陽香（20日15時、21日11時）

【狐】安藤麻衣

■主な配役

■演目紹介 *人形や物語の解説には手話通訳がつきます

「奥州安達原」 袖萩祭文の段

おうしゅう あだちがはら そではぎさいもん だん
平安の世、時の帝の弟宮が何者かに誘拐され、宮の守護役である平兼仗は、責任を問われ窮地に陥っていた。事件の背後には、先頃朝廷に滅ぼされた奥州の豪族、安倍一族の再起をかけた陰謀が見え隠れする。

主を失った宮の御殿で、兼仗が切腹を迫られるところへ、娘の袖萩が訪ねてきた。袖萩は、かつて浪人者と恋に落ちて勘当され、いまは夫にも離れて盲目となり、物乞いに身を落としていた。偶然父の窮状を耳にして、幼い娘を連れて駆け付けてきたのだ。必死で詫げる娘を前に、謹厳な父はけっして許そうとしない。その上詫びの手がかりにと袖萩がみせた書状から、その夫こそ安倍一族の棟梁であり、宮誘拐の首謀者と知れるのだった。奥州安倍氏の反乱を雄大な構想で描く時代浄瑠璃の傑作。中でもこの場面は繰り返し上演されてきた。

【袖萩】亀野直美

■主な配役

【平兼仗直志】松本幸子

【お君】鈴木文
【慶五】川川陽香



乙女文楽とは？

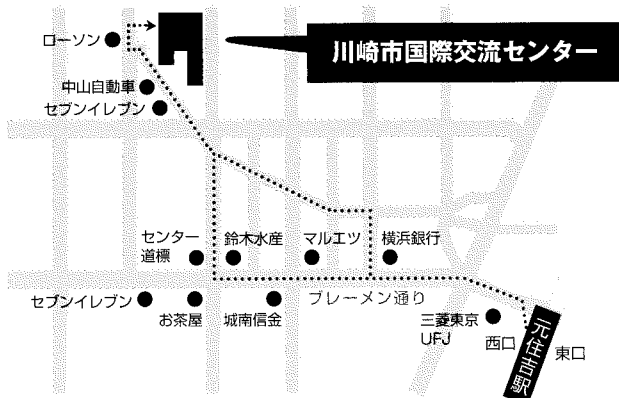
「文楽」はユネスコの「無形文化遺産」にも登録された日本を代表する伝統人形芝居。1体の人形を3人で操ることで、感情やしぐさを繊細に表現します。それに対し「乙女文楽」は、1人の人形遣いによって演じられます。大正末から昭和初期に文楽の人形遣い五世桐竹門造らによって誕生し、1人で遣うために、人形の仕組みと操り方にさまざまな工夫がなされています。女性ばかりで演じられる華やかな舞台もみどころです。

ひとみ座乙女文楽 ■創始者桐竹門造の直弟子である故・桐竹智恵子に1967年から教えを受け、翌68年に初公演。以来55年にわたって、国内はもとより世界各地で公演し、近年は地域に根ざしたさまざまな普及活動にも力をいれています。智恵子師亡き後は2010年より文楽の桐竹勘十郎師に指導をおおいでいます。メンバーは人形劇団ひとみ座の女性演技者です。2018年「川崎市地域文化財」として顕彰。2019年「松尾芸能賞特別賞」受賞。

【関連企画】公開講座「乙女文楽の多様な魅力」2024年2月18日(日) 14:00 神楽坂セッションハウス

乙女文楽には、異なる2つの操法があります。それぞれを伝える、東西の2座による実演解説をお届けします。

講師：林公子(近畿大学文学部教授) 出演：乙女文楽座(大阪府) ひとみ座乙女文楽(神奈川県)



会場：川崎市国際交流センター

〒211-0033 川崎市中原区木月祇園町 2-2
TEL. 044-435-7000

会場アクセス

東急東横線・東急目黒線
「元住吉駅」西口下車徒歩 10分～12分

*車椅子でのご観劇は、事前にお知らせください。